



「地球温暖化」 その4



今回は、「3R」のお話です。

8という数字は横に倒すと無限記号(∞)に見えることから、繰り返し使い続けるというリユースの理念を象徴するとして、8月8日はリユースの日と制定されています。

持続可能な未来を実現するために、使い捨てや過剰消費を見直し、詰め替え製品、簡易包装、リターナブル容器を選ぶなど、3Rのアクションは身近な暮らしの中でだれもができる取り組みです。環境問題の解決は一人ひとりの意識とアクションで大きく変わります。

いずれの「R」もエコフレンドリーな循環型社会にす

リデュース (Reduce)	減らす	ゴミの量を減らす
リユース (Reuse)	再使用	モノを捨てずに繰り返し使用する
リサイクル (Recycle)	再利用	廃棄物を資源として再利用する

るための効果的な取り組みだといえますね。

【ここに注目】

2022年9月、環境省は、循環型社会の方向性を示した「循環経済工程表」を策定しました。工程表には、持続可能な循環型社会の実現には、国の施策などだけではなく、私たちの意識変革や行動変容が非常に重要であることが示されています

例えば、資源循環型製品・サービスを選択することは、脱炭素や天然資源消費量の抑制に密接につながる行動となります。一度に全部はできなくても、3Rを生活に取り入れていきましょう。

関連 URL 環境省「エコジン」

<https://www.env.go.jp/guide/info/ecojin/feature1/20221116.html>

日本リユース業協会 <https://www.re-use.jp>

認知症地域支援推進員のつぶやき No.84 活路は、会話からうまれる！

オレンジカフェに初めて参加されるご姉弟が少し不安そうな表情で席に着かれました。自己紹介の際に、お母様のことと少しでも改善策があれば・・・との言葉が聞かれました。開催している身からすれば、大変な勇気を出して参加していただいたことがとても嬉しかったです。

認知症の情報が社会に広がり、関心を持つ方も増えてきていますが、実際に身内の方が認知症となり普段の生活に支障が出てきたら、どうして良いか分からずパニックになって当然です。不安や悩みを吐き出すことを我慢してしまう方も多いですが、気持ちを誰かに聞いてもらうことはとても大切なことです。相談することで気持ちが楽になり、解決策がすぐに見つからなくても一緒に考え認知症の知識を得ることで生活がしやすくなることも。不思議なことですが、家族の心が安定すると認知症当事者の病気の進行が進みにくくなると言われています。ご相談に来られたご姉弟も、お帰りになるころには少し和らいだ表情で会場を後にされました。笑顔が一番のお薬です。

私たちはここにいます！

認知症地域支援推進員配置施設

- 利根町地域包括支援センター ☎ 68-2211
- 利根町保健福祉センター ☎ 68-8291
- 複合福祉施設 響 ☎ 61-8500
- 介護老人保健施設 もえぎ野 ☎ 84-6081

地域おこし協力隊通信



田井隊長

おかげさまで、6月22日に風の公園で「第7回走りの教室」を開催することができました。ご協力・ご参加ありがとうございました！小学校低学年から高学年まで、合計12名に参加いただきました。暑さにも負けずに走り回る子どもたちのエネルギーはすさまじかったです。

また、6月21日に「すぽかるとね」で「陸上競技クラブ」がスタートしました。利根町スポーツ少年団出身の生徒も所属しており、楽しみながらも、技術や体力向上の練習を頑張ってくれていました！この流れを止めることなく、小学生から引き続き、中学生以降も、利根町にて陸上競技に触れられる機会を充実させていきたいです。

引き続き走りの教室やスポーツ関連事業、教育分野などを通じて町へ貢献していきたいと思っています。ご理解、ご協力のほどよろしくお願い致します。

「走る協力隊」稲垣鉄平です。5月25日にカンフー体験教室を開催しました。当日は小学生～大人の幅広い年代の方々にご参加いただきました。講師は武術太極拳で日本一の経験がある方で、最後には演舞も披露していただき、とても充実したイベントとなりました。今後もランニングイベントや皆さんが体験したことのないスポーツイベントを企画・開催していきますのでご期待ください。

また、毎月第1・3土曜日の6:30から「グッドモーニングスローランニング&ウォーキング」を定期開催しています。比較的涼しい朝の時間帯に、みんなで楽しくスロラン&ウォーキングしませんか？ご参加お待ちしております。



稲垣隊長



藤田隊長

こんにちは！空き家コーディネーターの藤田です。主に農家さんの空き家を再利用し、就農を目的に利根町に移住する人が増えたらいいな、と思いながら活動しております。私自身も、先日の田植えに続いて、野菜の栽培を開始しました。夏野菜各種に加えて、さつまいもは3,000本くらい植えてみました。秋には芋掘りイベントの開催をもうろんでます。物量が多く、また気温やお天気に翻弄され、思った以上に大変な作業でしたが、ご近所の優しい先輩方に手取り足取り教わって、何とかいくつかの耕作放棄地を畑に返すことができました。

利根町に来て1年、空き家や農地の再生をとおして、日々「生きる！」を実感しながら暮らしてます。地域おこし協力隊として、自分自身が移住の1つのモデルケースとなれるよう、今後も励みたいと思います。

空き家コーディネーターの安藤（ドゥーさん）です。現在、移住者向けのお試し居住施設を開設するため、空き家利活用PJに奔走しています。

空き家を「こんな風に使いたい」、「こんなことをしてみたい」と楽しい想像が膨らむ一方で、「本当にこんな使い方ができるのか？」、「建物規制に反してはいないのか？」といった疑問も多く抱えています。空き家の利活用にあたっては、都市計画法、建築基準法、その他関係法令に基づく許可などが必要です。空き家利活用PJでは、これらの条件を一つずつクリアしながら、開設に向けて前進しています。ここ数カ月は、改修工事よりも視察・行政訪問・打ち合わせに時間を費やしてきましたが、秋からは改修工事に力を入れていきます。空き家利活用PJで得られた知識は、今後の相談会などを通じて、皆さまのお役に立てるよう還元していきたいと考えております。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。



安藤隊長